



全日本中学校長会会長賞



勇気と思いやりの気持ちを



神奈川県・横浜市立南戸塚中学校 3年

ひらばやし じゅん
平林 純

僕にはとても厳しいけれど優しい祖父がいる。弱い人には優しく、曲がったことが大嫌い、弱い者いじめや間違っただけのことをすると誰にでも本気で怒る。ちょっとうっとうしい時もあるけれど、自慢の祖父である。

僕は小学校1・2年の頃よく祖父と自転車で江の島まで出掛けた。その時、祖父は僕に交通ルールや人としてのマナーを教えてくれていた。2人で信号待ちをしている時、僕よりも大きい小学生のグループが信号を無視して、信号待ちをしている人とぶつかりそうになりながら走り去ろうとしていた。すると、祖父が「止まりなさい。」と大声で言った。その人たちは最初迷惑そうな素ぶりを見せたが、祖父の注意の言葉を聞き、納得して謝って帰って行った。また別の日は、お茶を買おうとコンビニに寄ったら、高校生たちが入口に座り込み、お菓子のゴミを散らかし大騒ぎしていた。他のお客さんも入りづらそうだし、見て見ぬ振りをして通って行く人が大半だった。しかし、祖父はその高校生の中に入り、人の迷惑になっていることを伝え、片付けるように注意した。その高校生たちはちょっと怖そうで、僕は祖父がなぐられるのではないかとすごくドキドキして嫌な汗がっぱい出た。でも、その高校生たちは素直にゴミを片付け、祖父に一礼をして立ち去ったのだ。

その時僕は幼くてただ怖く、何で祖父はわざわざ人に注意するのだろうか…。自分がケガをしたり、嫌われるかもしれないのにと考えたが、今考えると祖父の行動は正しかったと思う。誰だって人に何かを注意するのは気が重いし、とても勇気がいることだと思う。でも、その人の為、世の中の為を思って祖父も勇気を出して注意しているのだ。自転車の小学生も信号

無視を続けていたら交通事故にあったり、誰かを傷つけてしまうことになる。コンビニの高校生たちも悪いと思いながら、誰にも注意されないからいいやと思っていたのかもしれない。

みんなが見て見ぬ振りをしないで、少しだけ勇気を持ち、声をかけることがきっかけになり、自分が間違っただけだと気づき、それが周りにも広がり社会が明るくなればいいと思う。

昔は近所にうるさいおじさんやおばさんがいて、よその子でも悪いことは悪いと注意してくれる。良いことは褒めて地域で子どもを育て、犯罪や非行を防止する仕組みがあったと思う。今は隣に住んでいる人が誰だか知らなかったり、顔を合わせても挨拶さえしないという。それでは人と人とのつながりがなくなり、自分さえ良ければいいとか、面倒なことに巻き込まれたくないと、人が孤立した世の中になってしまう。自分を思ってくれる人、気にかけてくれる人がいると思うだけで元気になれたり、悪いことをしようとする気持ちを思い留めさせてくれたりできると思う。

祖父は、悪いことを注意するだけでなく、僕に人の手助けをする大切さも教えてくれている。近所はお年寄が多く、高齢のご夫婦だけの世帯もある。どうしても手入れの出来ない植木を切って家の周りを掃除したり、時々お裾分けのものを持って様子を見に行ったりしている。皆、年は順番に取りお互い様で助け合う事を言葉ではなく態度で僕に教えてくれていると思う。

僕も反抗期というものの真っ只中で、毎日イライラして両親と言い争ったり、気持ちの持っていき場がなく家出してしまいたくなることもある。そんな時に祖父や祖母が僕の様子を察して、優しい言葉をかけてくれたり、好きなものを食べさせてくれる。単純だけど、それだけで気持ちが落ち着き、楽になるから不思議だ。

誰だって人に優しくされたり、気にかけて注意してもらったら嬉しいと思う。ひとり一人が思いやりを持って誰かに関わっていったら、社会が明るくなると思う。少しだけ勇気を出して、まずは身近な人を気にかけて、思いやりの心を持ってみてはどうだろうか…。

僕も祖父のように正義感があり、心のある人になりたいと思う。そして誰かの為に、世の中を社会を明るくする一端を担っていきたい。